



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

CD20モノクローナル抗体(L26) (ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装：60テスト(12mL)

Code：718471

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地 6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性及び抗原分布：ヒトpan-B細胞抗原の細胞内ドメインと特異的に反応する。B細胞の分化段階の中でpre-pre-B cellの一部から免疫芽球の一部まで強く反応し、形質細胞には反応しない。生細胞の膜表面にはわずかしか反応しないが、固定したスミアや組織切片には強く反応する。T細胞、骨髄球系細胞、マクロファージとは反応しない。
- 国際抗体分類：Fifth International Workshop and Conference on Human Leucocyte Differentiation Antigens(1993)でCD20に分類されている。
- クローン名：L26
- アイソタイプ：IgG2a, κ
- 製法：マウスの腹水より精製し、免疫グロブリン分画を得ている。

1. 内容

第一抗体・・・CD20モノクローナル抗体(L26) (動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のBセルの染色。

ホルマリン固定パラフィン包埋切片の免疫染色に使用できる。

研究用としてのみ使用すること。

3. 使用方法

組織切片の場合、前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン 抗原賦活化液pH9 (Code:415201又はCode:415211)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面の■操作手順参照)。

■参考：組織の固定条件等により抗原賦活化処理なしで良好な染色結果が得られる場合がある。

■組織の固定状況等が染色結果に影響を及ぼすため学会等が推奨する固定液や固定時間を遵守し、検体の取扱いには十分注意すること。染色条件を変更することで良好な染色結果が得られる場合があるが、組織へのダメージや偽陽性化、偽陰性化が起こるおそれがあるため、研究者自身の責任において至適条件をよく検討すること。

- 1) 本品を他の試薬とともに試薬ラックにセットする。各試薬のボトルキャップを外す。
- 2) ヒストステイナーの操作法に従って染色を開始する。
- 3) 染色終了後、セットした試薬はすみやかにボトルキャップをして2-8°Cに保存する。

4. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD20モノクローナル抗体(L26)
試薬略称(10文字)	CD20-MMr
バーコード	CD20-MMr
時間(分)	30

5. 貯法及び使用上の注意

1. 2-8°C保存。
2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。
3. 使用前に室温に戻すこと。
4. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。
5. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

6. 取扱い上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本品に関する化学物質の安全情報は安全データシート(SDS)を参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本品の廃棄の際には、各施設や地域及び国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱いに注意が必要である。
6. 本品にはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは水道管に含まれる銅、鉛との反応によって爆発の危険性があるので、多量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、感染の恐れがあるので適切な取扱い及び廃棄法を用いるとともに、免疫染色を実施するにあたって、関連技術及び操作法に充分習熟しておかなければならない。

7. 参考文献

- (1) Ishii Y, et al. Two distinct antigen systems in human B lymphocytes: identification of cell surface and intracellular antigens using monoclonal antibodies. Clin Exp Immunol. 1984 Oct;58(1):183-92.
- (2) Ishii Y, et al. Six distinct antigen systems of human B cells as defined by monoclonal antibodies. In: Reinherz, EL et al. editors. Leukocyte Typing II. New York: Springer; c1986. p.109-119.
- (3) Takami T, Ishii Y, Yuasa H, Kikuchi K. Three distinct antigen systems on human B cell subpopulations as defined by monoclonal antibodies. J Immunol. 1985 Feb;134(2):828-34.
- (4) 高見 剛. 免疫異常疾患のモノクローナル抗体による免疫組織学的解析. 免疫と疾患. 1984;8(6):785-791.
- (5) 高見 剛, 菊池浩吉. T、B リンパ球およびそれらのサブセット関連抗原の免疫組織化学. 病理と臨床. 1984;2(12):1624-1633.

■操作手順

[切片の準備]

1. 切片を3-6 μ mに薄切し、poly-L-lysineまたはシラン等の切片用接着剤をコーティングしたスライドに貼り付ける。37℃の恒温器で十分に乾燥させる。

[脱パラフィン]

2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS

[抗原賦活化処理]

3. 前処理(抗原賦活化): オートクレーブ処理

①調製した抗原賦活化液(下記記載)を耐熱性の染色バットに入れ、スライドを浸漬させる。

②染色バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。

③120℃、20分間オートクレーブ処理する。

④圧力が十分下がった後、染色バットをオートクレーブから取り出し、蓋をはずす。スライドを浸したまま常温(15-25℃)で20分間放置しゆっくり熱を冷ます。

※オートクレーブ処理後は、染色バット及び抗原賦活化液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用して火傷に注意する。

⑤スライドを抗原賦活化液から取り出し、PBSで洗浄する(洗浄用容器を2度かえ3分間の洗浄操作を3回繰り返すか、又は洗浄びんを使用する)。

・抗原賦活化液

「抗原賦活化液pH9」の調製方法

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。 |
|---|